

博士課程教育リーディングプログラム 平成26年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	お茶の水女子大学	申請大学長名	羽入 佐和子
申請類型	複合領域型（横断的テーマ）	プログラム責任者名	河村 哲也
整理番号	T02	プログラムコーディネーター名	古川 はづき
プログラム名	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、日本の持続的発展及びより良い世界の実現の一翼を担い、社会が必要とするイノベーションを創出し続けられる理工系グローバルリーダーの養成を目的とする。特に、物理・数学・情報の基盤力を身につけさせるとともに、Project Based Team Study (PBTS) により、課題発見、課題解決、協働、プロジェクトマネジメント、多様性理解に関する実践力強化に取り組む。さらに、学修成果の質を保証するために、Qualifying Examination (QE) を導入するとともに、その評価システムを構築し、大学院教育の質保証システムを確立する。

本学の改革構想としては、これまで行ってきた異なった専攻間の融合（専門分野を超えた学際的な学びの機会提供）等による組織改革や教員の意識改革をさらに発展させるべく、グローバル理工学副専攻プログラムを設置し、履修領域と指導体制を特化した5年一貫の博士課程教育を展開する。さらに、教育内容のグローバル化を推進し、国際社会で活躍するグローバルリーダーの育成をめざす。

なお、本学では、女性リーダー育成に関するこれまでの実績を踏まえ、「2020年までに指導的立場に立つ女性の比率を30%に高める」という国の数値目標達成に対し、女性の理工系グローバルリーダーを育成することで貢献していきたいと考えている。

2. プログラムの進捗状況

平成26年度は、第一期履修学生12名を迎えて、本プログラムの活動を本格化した。すなわち、H25年度に構築した制度やシステムを発展させつつ運用を開始し、本プログラムに関わる教育研究活動ならびに広報・学外交流活動を具体化させた。進捗状況を以下10点に記す。

1. 本プログラム運営に関わる組織

- ・本プログラムの実施・運営にあたる組織として、①リーディング大学院推進センター、②リーディング大学院推進センター運営委員会、③リーディング大学院アドバイザー・ボード、④リーディング大学院学生選考委員会、⑤リーディング大学院支援部、⑥リーディング大学院学内評価委員会、⑦支援教員団、の7組織について構成を具体化し、順次運用を開始した。

- ・①は本プログラムの事業活動全般を担当する組織であり、当初の設計どおりの機能を発揮している。②は年間12回の会議を開催し、事業運営を適切に方向付けている。④は学生選抜に関わる諸事項に対応した。⑤は学外部員を含めた活動を開始し、予定どおり年2回の periodic QE (pQE) を実施した。⑥は今年度の事業報告に対応すべく、評価基準を整備している。⑦は PBTS の課題設定にあわせて四教員団を編成すべく学内外の識者に委嘱準備中であり、次年度より実働を開始する予定である。

2. 本プログラム運営に関わる人員

- ・本プログラム推進組織であるリーディング大学院推進センターに、事業運営を担当する特任教員・特任アソシエイトフェロー・アカデミックアシスタントを、また、副専攻における教育研究活動を担当するスタディコモンズ特任教員について、外国人を中心に採用した。

3. 本プログラムのカリキュラム

- ・本プログラム（副専攻）で開設する5項目（①イノベーション創成基盤科目、②グローバルリーダー育成科目、③PBTS 科目、④研究室ローテーション科目、⑤アウトリーチ科目）のうち、①と②では6科目と2科目をそれぞれ開講し、次年度以降の開講計画を策定した（全16科目）。③は導入教育を経て開講し pQE の対象として継続評価している。④および⑤については次年度以降の具体化を目指して準備中である。

4. 本プログラム参加者の募集・選抜

- ・平成26年9月に選抜試験（書類選考、面接、プレゼンテーション等）を実施し、応募者1名中1名（留学生）を選抜した。育成は平成26年10月から開始した。また、平成27年2月に同様の選抜試験を実施し、応募者6名中6名（留学生1名）を選抜した。育成は平成27年4月から開始する。

5. 教育研究活動に必要な環境整備

- ・本プログラムの教育研究を遂行する上で必要な機器設備を購入設置し、指導および実習に供した。また、教育研究環境として、学内2箇所新たに学習・討議エリアとOA機器等を整備し、使用を開始した。

6. 教育研究活動を支援する制度

- ・PBTS を推進する上で必要な活動経費（消耗品購入、出張など）を支援する制度を構築し、運用を開始した。
- ・研究室ローテーション（グローバル研修）を実施する上で必要な手続き・経費支援・連絡体制などを制度化し、次年度からの運用に向けて履修学生への周知を開始した。

7. 教育研究成果の発信と学外交流

- ・J-WIN 主催の女性技術者交流行事に参画し、履修学生が PBTS 研究経過について学外者と意見交換した。
- ・ミニワークショップ開催・JAXA 筑波訪問行事を通じて履修学生と学外との交流を促進した。
- ・他大学のリーディングプログラムとの情報交換を開始した。

8. 学修支援システム

- ・学修成果の質保証のために、4種類の Qualifying Examination (QE) の構築と運用を推進した。すなわち、①initialQE (iQE; 選抜試験) においては、H25年度に採用したルーブリック評価を本年度2回の共通の評価軸として適用し、選抜基準の普遍化に活用した。②middleQE (mQE; 2年次までの学修到達度の評価) は次年度に実施予定であり、物理・数学・情報分野の基礎問題に基づく Web 試験システムの構築を順調に進めた。③periodicQE (pQE; 半年毎の研究実施状況の評価) では、前項期末にそれぞれ PBTS の経過報告会を開催し、学内外の識者で構成するリーディング大学院支援部から評価・指導・メンターを施した。④finalQE (fQE) については次年度以降に H29 年度の実施に向けた準備を開始する予定である。

9. 広報活動

- ・ホームページ（日英中韓）を開設した。日本語および英語ページの構成を拡大し、プロモーションビデオを掲載するなど情報発信を継続した。
- ・プログラムパンフレット（日・英版）を作成して国内外の大学、企業、在外公館等に送付し、本プログラムの内容を周知するとともに参加学生を募った。

- ・ニュースレター（日本語および英語）を年4回発行し、国内外の大学や企業に本プログラムの活動内容を周知した。
- ・キャリアセミナー「お茶大方式！リケジョの明るい未来」を実施し、本プログラムの周知に活用した。
- ・留学生の獲得に向けて International Educational Fair in Krakow (Poland) へ出展した。また、東欧各国の大学を訪問して本プログラムの内容を周知した。

10. 学内活動

- ・スタディコモンズ特任教員による研究紹介セミナー（英語）を継続的に開催し、学内のグローバル化への布石とした。